

【ご報告】2019 年度実施 英語学習意識の調査

2019 年度、公文式英語の学習効果の可視化および学習者の意識・意欲の実態調査を、下記の要領で実施しました。ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

【調査対象】

① 小学3年生～6年生（19年度時点） ②英語 I 1 教材以上を学習中（19 年 5 月末時点）

→上記条件を満たした生徒のうち、以下の 2 グループを設定し、了解をいただいた方に調査にご協力いただきました。

A：19 年 EIC（English Immersion Camp）に参加した生徒：91 名

B：19 年 6 月に TOEFL Primary® Step2 を受験し、2019EIC には参加しなかった生徒：75 名

【調査概要】

◆英語学習への取り組み意識・コミュニケーションをとることへの意欲や姿勢に関する約 50 項目からなる アンケートに回答いただく（19 年 7 月と 20 年 1 月の 2 回。EIC 参加者はキャンプ中にも実施）

◆TOEFL Primary® Step2 を 19 年 12 月に再度受験いただく。

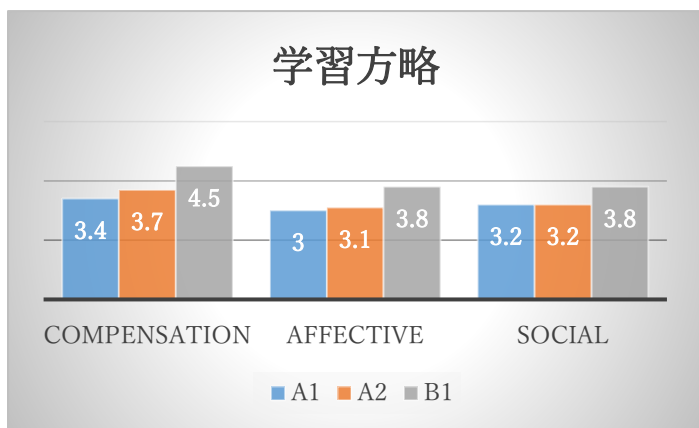
→集まったテストデータとアンケート結果を、関西大学外国語学部学部長/竹内理先生のアドバイスの元、分析を行いました。

■公文式英語学習の進捗と、TOEFL Primary® Step2 スコアの関係

今回対象者の方に 2 回受験いただいた TOEFL Primary® Step2 は英語によるコミュニケーション力をはかるテストです。公文式英語を学ぶ子どもたちは、公文式英語教材の進捗が高ければ高いほど、“読むことによる英語コミュニケーション能力”も高まる傾向にあることが、2 回のテスト結果において証明されました。

■読むことによる英語コミュニケーション能力が高い学習者は「前後から推測する」ことを意識して学習している。

英語をよりよく身につけるためにどのような学習の仕方（この研究分野では『学習方略』と呼びます。）をすれば効果的か、そして学習者はどのようなモチベーションを持っているか、第二言語習得の分野では、世界中で研究がおこなわれています。2019 年度のリサーチでは、これまでの研究をもとに、公文式英語を学ぶ子どもたちが日頃意識している学習の仕方やモチベーションについての調査を行いました。



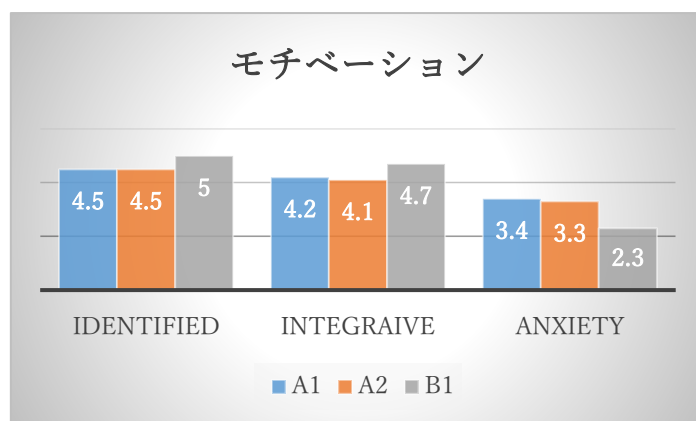
これにより、リーディングスコアが高い学習者の傾向を分析してみると、英語を学習する際、わからない言葉や構文があっても、推測し、文脈から意味を考えて理解することを心掛けている割合が高いことがわかりました。

また、英語を学ぶことについて「英語は将来役に立つ」「自分のこれからにとって必要」といった、自分自身のこれからや将来を見据えたモチベーションを持っている傾向が強いことも判明しました。

二つのグラフは、それぞれ、TOEFL Primary® のリーディングスコアの CEFR（*注1）別で、意識している学習方略、モチベーションのアンケート項目の平均値を分析したものです。

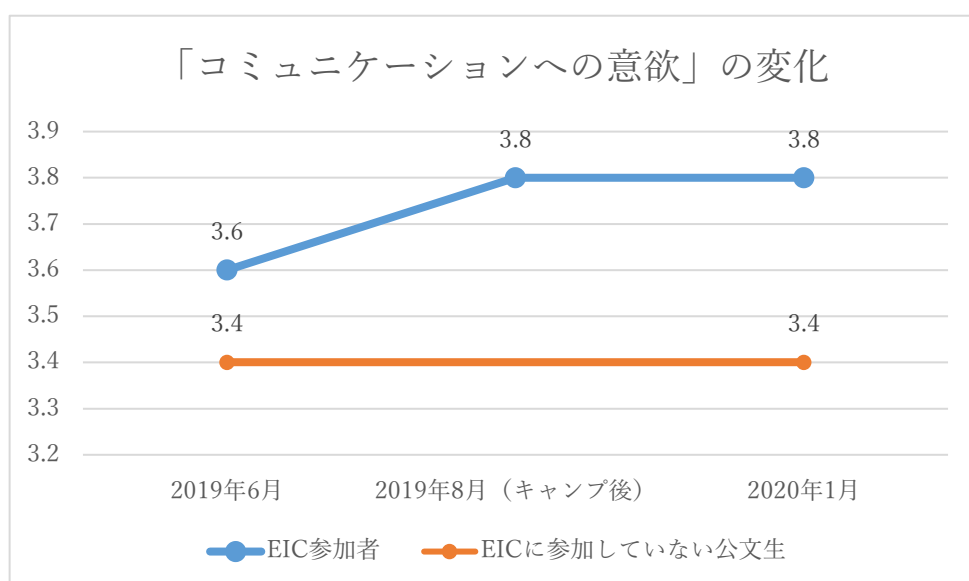
CEFR のレベルが上がるごとに、推測などを活用する「Compensation」、また、自分の感情をうまく調整しながら学習する「Affective」、友達と競い合ったり、先生とよい関係を築きながら学んでいく「Social」の学習方略を使っている子どもたちが多いことが見て取れます。

モチベーションにおいては、CEFR のレベルが上がるごとに、将来の目標を意識した「Identified」、異文化への理解や興味からくる「Integrative」等のモチベーションが高く、言語使用への不安からくる「Anxiety」が低くなっていることがわかります。



■コミュニケーションの「実践の機会」があった学習者は、英語でのコミュニケーションへの意欲が高まる。

今回は、EIC 参加者と、EIC に参加していない公文生との比較も行いました。EIC 参加者は、英語を使う「実践の機会」に参加したことで、より英語でのコミュニケーションへの意欲が高まることわかりました。右のグラフは、「コミュニケーションへの意欲」の EIC 前と EIC 直後の変化度のグラフです。EIC 参加直後、コミュニケーションへの意欲が大きく上昇し



約半年間保持していることがわかります。また、EIC に参加したことで先生や友達など、様々な人とのかわりの中で英語を身につけようとする「社会的」の学習方略を駆使するようになり、そのことが *TOEFL Primary®* リスニングスコア（“聞くことによる英語コミュニケーション能力”）の伸びを高める傾向にあることもわかってきました。

■リサーチ結果から、日頃の学習をよりよくするために…

今後も楽しく英語学習を続け、*TOEFL* テスト等でも力を発揮するために、日頃の学習の中では難しい文章や語彙があっても、まずは前後の文章を読みながら、自分で推測力を働かせながら読み進めること、また、「英語は教科だから勉強しなければいけない」というよりも「自分の夢をかなえるために英語を学ぼう」というモチベーションを持つことが大切だと考えられます。

また、子どもたちを見守る周りの大人は、子どもたちの「言語使用の不安」を低減させるためにも、EIC のスローガン「Don't be afraid of making mistakes. Let's try communicating in English.」にもあるように、間違いを恐れず、未知の学習内容に挑戦していることを日頃から多くほめ、単に「英語」という教科だけではなく、接する英語の中に見える文化や世界の人々に思いをはせながら、楽しく学習できるようなサポートをするとよいようです。そのことが、より高い英語コミュニケーション能力へとつながっていきます。

また、機会があれば EIC や EID、地域の英語イベントなどにも積極的に参加していくとよいでしょう。日頃身につけている英語の「実践の機会」を得ることで、コミュニケーションへの意欲をさらに高めることができます。

英語を学習している子どもたちが、将来世界中に羽ばたいていくためにも、このような「子どもたちから学ぶ」調査を今後も継続して行いたいと考えています。

（注１）CEFR…Common European Framework of Reference「ヨーロッパ言語共通参照枠」。ヨーロッパを中心に、世界で使われている言語の習得レベルを示す評価基準。A1、A2、B1、B2、C1、C2 と、６段階で英語の能力を表しており、英検のレベルでは A1 が５～３級、A2 が準２級、B1 は２級のレベルと示されています。

（出典：公益財団法人 日本英語検定協会 HP より）

https://www.eiken.or.jp/eiken/group/result/pdf/report_02.pdf